

キーワード20 自己理解

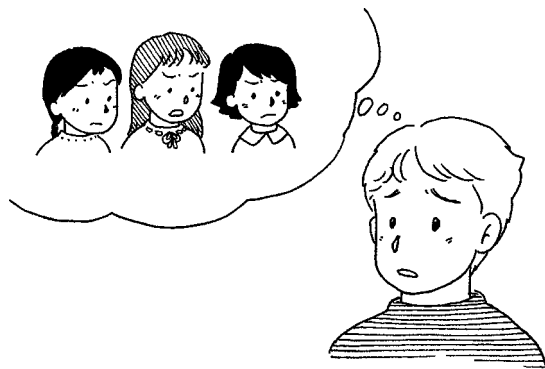
小学校5年生の担任のT教諭が、生活指導担当のU主幹に職員室で話しかけた。

T教諭：「U先生、相談があるのですが、今よろしいですか？」

U主幹：「いいですよ。どうしたのですか？」

T教諭：「実は、クラスの子から『できる子ばかりひいきする。』って文句を言われたんです。私は、ひいきをした覚えなんかありません。だから、『ひいきなんかしていない。注意するときは、同じに注意している。』って言ったんです。そうしたら、『できる子を叱るときは、私たちを叱るときと全然違う。目が笑っている。』とか『授業中、できる子の方ばかり向いている。』とか言うんですよ。」

U主幹：「そうですね、私にも同じような経験があります。そのときは、自分の授業を同学年の先生に見てもらいましたよ。」



事例のように思ってもみなかったことを子供に指摘されると、言下に否定したくなったり、怒りを覚えたりすることさえあります。

自分を振り返りましょう

「人との関係の中での自分」を理解するための心の窓です（ジョハリの窓）。

誰もが②の窓のような「他人は気付いていても自分は気付かない領域」をもっています。

		自 分 が	
		知っている	知らない
他人に	知られていない	① 開放した領域	② 気付かない領域
	知られていない	③ 隠した領域	④ 未知の領域

自分に気付く

無意識の行動の中に、自分も気付いていない顔がのぞいていることがあります。「子供は活発で元気なのがよい。」という考え方の人は、おとなしい内気な子に何か物足りなさを感じ、マイナスの見方をしてしまうかもしれません。けれど、こういう自分の見方や考え方の特徴に気付いていると、子供の行動を見たり解釈したりするときに、偏らないように自分自身で気を付けることができます。

よい面も嫌な面もすべて自分

非のうちどころのない完璧な人はいません。嫌な面も自分の一部です。よい面も、嫌な面も、すべて自分として認めることが大切です。自分を受け入れることのできる人が、他の人に対しても、その人の身になって理解し、受容できるのではないのでしょうか。